

また一步、災害に強いまちへ

非常災害時における 施設開放に関する協定 締結式



10月10日(金)に町と佐竹鉄工株式会社は「非常災害時における施設開放に関する協定」を締結しました。この協定により、災害発生時などに同社の高田工場を一時避難場所として開放していただけることとなりました。

川地憲元町長は「150万枚ものマスクを寄附いただいたことも記憶に新しいところです。昨今では線状降水帯の影響などにより、避難が必要となる機会が幾度となくありました。安心・安全なまちづくりを推進する協定を締結でき、感謝しています」と感謝を述べ、同社の佐竹宏文代表取締役は「当社の工場は高台にあるため、災害時の避難所として役立てられるのではないかと日頃から考えていました。災害がないことが一番ですが、必要となった際には町民の生命を守るために役立ててください」と話しました。

手を取り見守る道路と地域

地域見守り活動に関する協定締結式



10月23日(木)に町と中日本高速道路株式会社 名古屋支社 羽島保全・サービスセンターは「地域見守り活動に関する協定」を締結しました。この協定は、住民が安心して暮らせる地域社会づくりを目的とした地域見守り活動について定めたものです。

川地憲元町長は「様々な要因によって、地域コミュニティの繋がりが希薄化してきたように感じられますので、このような見守り活動をしていただけることは大変心強いです」と話し、同センターの高松大輔所長は「東海環状沿線市町をはじめ、これまで西美濃地域との連携を強化してきました。道路点検時などに見回りなどを実施し、これからも地域の安心・安全のために協力していきたいです」と話しました。

“限界突破”最後まで折れない心で



東京都で開催される文部科学大臣杯 第19回 J K J O 全日本ジュニア空手道選手権大会に出場する田中彩翔選手と加藤彩花選手(ともに桜塾)が10月23日(木)に川地憲元町長を訪問しました。

田中選手は「今年のテーマである“限界突破”を胸に、少しでも良い結果を目指して大会に臨みたいです」と、加藤選手は「今までの練習の成果を発揮して、最後まで諦めず、前向きに大会に臨みたいです」とそれぞれに抱負を話しました。川地町長は「空手は身体だけでなく精神力が鍛えられる競技だと思います。日々の厳しい練習が人間としての成長に繋がり、必ず将来に役立ちます。今後の二人の活躍を楽しみにしています」と激励しました。

歴史を塗り替える快挙



大阪府大阪市で開催された第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会において、岐阜県チームの先鋒として出場し、準優勝した加藤優志郎選手(志道館学園)が10月24日(金)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

川地町長は「この大会における岐阜県代表としての史上最高成績という快挙を成し遂げられ、町としても非常に誇らしいです。大会前に意気込みを聞かせてくれたとおり、先鋒としてチームに勢いを付けられたからこそその結果だと思います」と賞賛し、加藤選手は「皆さんから応援いただき、パワーをもらいました。やるべきことをし、歴史を変えたいという思いを持って大会に臨みました。更に上を目指してこれからも稽古に励みます」と話しました。